

自己評価の結果について

1. 本園の教育目標

『おいのり・しんせつ・がまん』

・キリスト教の教えに基づいて、日々の生活の中で人を大切に、互いを思いやることのできる豊かな心を育てます。

・明るく元気でたくましく、伸び伸びしたなかでも、礼儀正しい生活を大切にしています。

・友達と仲良く遊び、協力し、楽しく生活する中で、人への愛情や信頼感を感じ、すすんで善い行いをする心を養います。

・表現活動やさまざまな遊びを通して、神さまから与えられた力を十分に発揮し、豊かな感性、創造力を育てます。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

『チャレンジ！！』

・すすんで挨拶をし、明るく温かい幼稚園を目指す。

・物事に取り組む中で、苦手なことにも挑戦しようとしたり、最後まで諦めずにやり遂げる大切さを知る。

・好奇心を持って、様々な活動に取り組み、楽しみながら自分の力を発揮する。

・神様のお創りになったすべての物に感謝する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目・目標	取り組み状況
1 保育の在り方 保育の計画性 保育の内容及び指導の在り方を精査し、指導計画を策定し、教育内容の充実を図る。	横割り保育をメインに保育を行った。昨年度に引き続き、縦割り、横割り混合保育の良さを活かされるように異年齢で活動する日を「にじいろデー」とし、異年齢で活動したり、行事に参加したりした。それに伴い、クラスの枠に囚われず、職員全員で園児達と関われるように工夫し、話し合っている。 学期毎に職員で反省会を行い、保育を振り返る時間を設けている。昨年度同様、1ヶ月に1度、クラスの園児の様子を伝え合う職員会議を行い、園児の様子を綿密に共有できるように心掛けた。 今年度より、幼稚園型認定こども園となり、2号認定の園児の在籍、土曜日の預かり保育、給食の提供が始まった。職員内でも戸惑いはあったが、日々預かり担当者で検討を重ね、本年の良さを活かした長時間保育を行えるよう計画することができた。 園児の主体性を育むために、月の保育予定を立てずに保育を進めつつ、園児の興味に合わせた環境作りに力を入れた。その結果、園児の遊びが深まり、担任、園児共にゆとりを持って過ごすことができた。 年齢に応じた保育をするために、満3歳児は運動保育や神様のお話、聖劇には参加しなかった。園児に負担をかけることなく、保育を進めることができたと感じる。
2 幼児への対応 安全管理の徹底、幼児理解の向上、子育て支援その他の充実を図る。	職員一人ひとりが子どもとの関わりを深め、多面的に子どもを見ることにより、クラスの分け隔てなく園児を理解し、それを職員で共有し、保育に生かすことができた。 運動会は、天候の影響で延期となり、延期日も園庭での開催は出来ず、急遽園舎内ホールで行なった。予定にはない開催方法に急遽変更したこと、連絡の遅さから保護者の方をはじめ園全体が困惑する事態となった。これを猛省し、様々な状況を想定した厳密な計画、迅速な対応が必要であったという反省が挙げられる。 冬の寒さ対策として、2階廊下と玄関に大型ストーブを設置した。昨年度と比較し、温かい園舎で過ごすことができるようになった。 月に1度、様々な災害を想定して避難訓練を行なった。訓練を重ねることで、避難時のお約束について理解が深まり、園児が自分で自分の身を守る力が身に付いた。 園の絵本に入れ替えを行い、新しい絵本を少しずつ購入した。それにより、園児の絵本への興味関心が深まった。
3 保育者としての資質 保育専門家としての能力、姿勢、責任等、資質向上を図る。	保育者として、園児の成長を自分の喜びと感じ、生き生きと保育に務めることができた。 カトリック幼稚園という意識を高めるため、月に1度キリスト教について学ぶ機会を設けている。 園児一人ひとりの縦割り、横割りのクラス・預かり保育での様子を共有することで、園児を多面的な視点から見守ることができた。 教職員が揃って会議を行う時間の確保が難しく、伝えるべき情報の伝達が疎かになってしまふことがあった。預かり担当の職員も会議に参加できるように工夫したことにより、改善された部分もあるが、全教職員に情報が行き届くように改善するまでには至っていない。

評価項目・目標	取り組み状況
	クラス担任に1台ずつパソコンを支給することにより、おたより制作や会議が円滑に進められるようになった。今後も業務がしやすくなるように、必要なICTを取り入れたい。
4 保護者への対応及び 家庭との連携 園児に関わる情報の発信や受信、保護者のニーズの把握、要望や苦情に適切な対応を図る。	保護者から相談があった時には、職員会議等で検討し、園の方針と状況、平等性を考慮しつつ、できるだけ応えられるよう努力した。今後も、保護者が相談や要望を伝えやすいオープンで温かい雰囲気作りを心掛けたい。 クラス担任と保護者との連携は、送迎時に会えない家庭とも連帯が希薄にならないよう、電話やお手紙、連絡帳等を活用し、深い連携が取れるように工夫した。 今年度より、LINEを通して、おたよりを配信することとなり、印刷や配布準備にかかる時間が削減され、その他の業務に時間を費やすことができた。同時に、ペーパーレス化を進めることができた。また、保護者の方に伝えたいことを迅速に配信することができた。
5 地域社会との連携 地域の自然や社会との関わり及び小学校との連携を図り、地域開放の努力をする。	保健センターやこどもらんど、機関相談支援センターぼけっとの連携を密にし、子どもの成長を地域の機関と見守れるよう心掛けた。 昨年同様、年長児が小学生と交流することができ、就学に向けて期待を高めるひとつのきっかけを作ることができた。次年度以降も、交流を深め継続したい。 親子教室は、昨年度コロナが5種に移行したため、今年度より、コロナ前の時間・内容に戻して行なった。時間が長くなったことで保護者同士の交流の機会が増えたように感じる。また、今年度も満3歳児と自由遊びを通して交流することができた。今後も、園児の「初めての集団生活の場」として馴染みやすい雰囲気作りを大切に、満3歳の園児に限らず、様々な学生の園児と交流できるような保育を計画したい。 小学校に兄弟のいる園児が登園しやすいように、小学校の行事予定も参考に年間行事予定を作成したい。
6 研修と研究 研修・研究を積極的に行い、専門性を高める努力をする。	オンラインの研修が主流となり、学びたい分野の研修に参加しやすい環境ができた。今後も積極的に参加したい。 保育者のキャリアアップのため、保育者それぞれが様々な研修に参加している。しかし、そこで得た知識を他の保育者と共有する時間を満足に設けられなかった。研修内容を園全体で共有し、教職員全体の保育の質が上がるようにしたい。 今年度、多くの研修会に参加したが、中でも「園児の主体性を伸ばす保育について」取り上げた研修会や、「公開保育」を行なった研修会からの学びや情報を保育に活かすことができた。
7 情報公開 保育の現状や自己点検・評価の結果等を個人情報の保護に留意しつつ、積極的に園だより等で情報公開する努力をする。	家庭と園との相互理解を深めるため、学校評価を実施し公開している。 園児達の園での様子がわかるよう、各担任が保育の様子をInstagramで更新している。また、昨年度同様、行事や日常の保育の様子を写真で撮影し動画にして配信した。 毎月、横割りクラスでクラスだよりを発行している。今年度は、おたよりをLINEで配信することになったため、例年に比べ、写真を多めに掲載したクラスもあった。

4・学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

各自の自己点検、評価の結果に基づき職員会議を行なった。取り組むべき課題について、全職員が共通理解し、それぞれが取り組み状況を話し合うことで本年の方針を明確にし、課題を再認識することができた。

園児の体調不良や災害等を理由に休園することなく、1年間保育をすすめることができた。園児の家庭での健康管理に感謝しつつ、引き続き、園での衛生管理も徹底したい。

職員の入れ替わり等がなく、安定した人員で1年間保育に努めることができた。

職員が子ども達の情報を共有し、連携することで、どの保育者もクラスの隔たりなく、園児の成長や課題を理解して関わるのが出来た。次年度も、情報を共有しながら園児と関わりたい。

認定こども園への移行で、例年にはない課題が挙がった1年であったが、教職員で相談したり、話し合ったりすることで、1つつ課題を解決し、本園らしさを残しながら、新しい形ができつつあると感じている。今年度を基盤に次年度より良い保育を目指して邁進したい。

5・今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
幼児への対応	避難訓練は、保護者への連絡も訓練のひとつとして、緊急時に園と家庭が迅速に連絡を取り合えるよう保護者を巻き込んだ避難訓練の方法を検討したい。
地域社会との連携	小学校との連携は、交流だけに留まらず、振り返るを共にする等、さらに内容を深めたい、園と小学校のみならず、関係機関との連携も視野に入れ、より踏み込んだ連携の形を目指したい。
情報公開	インスタグラムの更新や動画配信の頻度は、クラスによって頻度に差がでないように配慮したい。

6・学校関係者の評価

◎評価方法は『A（満足）』『B（やや満足）』『C（やや不満）』『D（不満）』の4段階で、感想等も記入して頂く方法で実施。

1. 「保育の在り方・保育の計画性」・・・A：8名 B：1名 C：0名 D：0名
「幼稚園型認定こども園になった事により給食の提供や預かり時間が増えたり保護者にとってはとても有り難かったです。職員の方達のご苦勞お察しします。ありがとうございます。」「保育予定を大まかでもよいので伝えていただけるとありがたい。」等のご回答をいただいた。
 2. 「園児への対応」・・・A：5名 B：3名 C：1名 D：0名
「運動会は天候に恵まれなかったこともあり、先生方も判断が難しかったと思います」「ストーブが増設されたり絵本の入れ替えなどは大変良かったと思います。」等のご回答をいただいた。
 3. 「保育者としての資質」・・・A：8名 B：1名 C：0名 D：0名
「特に指摘する事項はなく、妥当であると認められる。」とのご回答をいただいた。
 4. 「保護者への対応」・・・A：6名 B：3名 C：0名 D：0名
「LINEでの配信でペーパーレスになり、すぐに確認できる点もいいと思います。」等のご回答をいただきました。
 5. 「地域社会との連携」・・・A：8名 B：1名 C：0名 D：0名
「特に指摘する事項はなく妥当であると認められる。」等のご回答をいただきました。
 6. 「情報公開」・・・A：8名 B：1名 C：0名 D：0名
「Instagram」や「動画配信」に対する高評価を多くいただいた。一方、「Instagramの写真の更新がクラスごとに偏っている気がした。」というご意見もいただいた。
- その他・・・教職員に対する感謝や労いの言葉を多くいただいた。また、「役員活動（ベルマーク活動）に関しては本当に必要な活動かを話し合い等して決めてもいいと思いました。」というご意見もいただいた。

7・財務状況

大手監査法人である太陽ASGの有限責任監査法人（東京）の監査を受け、適切に運営されていると認められていると認められている。また、法人本部の財務状況報告により法人内各幼稚園及び学園全体の財務状況は職員の間周知されており、共通理解に立って効率的な運営に努めている。